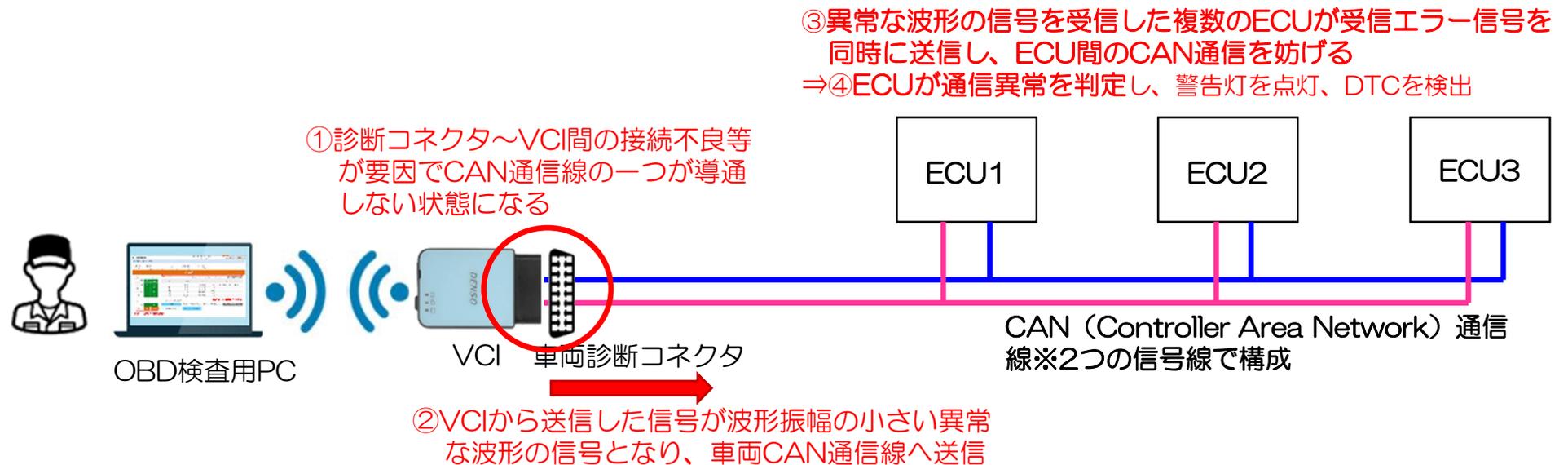


プレ運用期間中に明らかになった課題*への対応
*OBD通信中にエンジンチェックランプ点灯

OBD検査プレ運用で見つかった事象の発生要因

当該車両は車載ネットワーク中継器を搭載しておらず、車両CAN通信線に直接VCI（車両通信インターフェース）を接続する。検査時にVCIに膝等がぶつかる等が要因で車両診断コネクタとVCIコネクタ間の接続不良が発生し、VCIから送信した信号が波形振幅の小さい異常な波形の信号となり、複数ECUが受信エラー信号を同時に送信して通信を妨害した為にECU(電子制御ユニット)が通信異常を判定し、警告灯を点灯、DTCを検出したと考えられる。



(参考)車載ネットワーク中継器を搭載する車両で本現象は発生しない



「OBD通信中にエンジンチェックランプ点灯」に関するプレ運用時の対応

1. OBD検査を実施する際の注意点

車両診断コネクタへ車両通信インターフェース（VCI）コネクタを確実に接続頂ければ、本事象は発生いたしません。確実に接続する為、下記の点にご注意願います。

- 接続する前に、車両診断コネクタ/VCIコネクタに端子折れや曲がり、端子の口開き、コネクタ勘合面に異物噛み込み、割れや変形等、嵌合不良を生じる不具合が無い点検すること。

※なおVCIコネクタ挿抜に伴う経時劣化状況を点検する為、NALTEC様が定期点検(年一回)、始業点検を計画中と伺っております。



- VCIコネクタを車両診断コネクタにしっかりと奥まで差し込むこと。

※特定DTC照会アプリ操作マニュアルに記載されているように、VCIを車両診断コネクタへ接続する前に車両の電源がOFFであることを確認してください。接続後、車両のエンジンをON（ハイブリッド車等はREADY）してください。



嵌合面に対して垂直に奥まで差し込む（ラッチがかかる事を確認すること）

- OBD検査中、VCIコネクタに膝等をぶつかけたり、VCIコネクタケーブルに足を引っ掛けたりしないこと。



膝等をVCIコネクタへぶつけないようにスペースを確保の上、作業して下さい

- 診断コネクタ～VCI間の接続不良等の要因で警告灯が点灯した場合は、OEM販社等に持ち込んで適切な処置をお願いします（車両やDTC等の状態確認、DTC消去等）

「OBD通信中にエンジンチェックランプ点灯」に関するプレ運用時の対応

2. 前回（‘23.12.22）のOBD検査準備会合にてご要望いただいた情報提供について下表に示す形で提供いたします。

なお、大型車のOBD検査対象車の1社1車種で車載ネットワーク中継器を搭載しない車がございました。前回の会合で報告が漏れており、誠に申し訳ございません。

情報提供の対応について ※OEM供給車は供給元が情報を提供

提供する情報	提供方法
(1)車載ネットワーク中継器非搭載のOBD検査対象車名	• 個社より日整連様に情報を提供いたします。必要に応じ各整備工場様へご共有いただきたく存じます。
(2)車載ネットワーク中継器搭載のOBD検査対象外車情報	• 個社より日整連様に情報を提供いたします。

（ご相談事項）

日整連様から各整備工場様への情報展開方法について別途協議させていただけないでしょうか？

- 上記(2)に関して、個社からの提供情報内容にバラつきがございますので、各整備工場様へ提供される具体的な情報についてわかりやすい形での提供が求められると考えております。
- OBD検査で必要となるDTC等を車両から読み出す為には、各整備工場様にて車両診断コネクタへ車両通信インターフェース（VCI）コネクタを確実に接続頂く必要がございます。OBD検査を実施する際の注意点を周知することが重要と考えております。